



セレナは真剣な顔をして言った。

「別にいいよ」

ミスエンジェルはマスクを脱いだ。セレナは自分の目が信じられなかった。

「ミスエンジェル。あなたは、ノラだったの？」

セレナの声は震えていた。ノラは頷いた。セレナは矢継ぎ^{やつ}早^{ばや}に問いかけた。

「どうして私と友達になりたいと思ったの？」

「ええと、どう答えたらいいか……。セレナは私と似ていたから。私が初めてこの学校に来た頃、イジメられて、みんな見て見ぬふりをした。私も密^{ひそ}かに我慢しながら耐えた。でも、